

令和３年度第２回千葉市病院運営委員会議事録

1 審議方法 書面審議

- 2 審議期間 令和４年２月２８日（月）から令和４年４月８日（金）
意見聴取（令和４年２月２８日（月）、令和４年３月１５日（火）、令和４年
３月２８日（月））

3 書面審議者（委員）及び事務局

- （１）委 員 斎藤博明委員（委員長）、横手幸太郎委員（副委員長）、
浅井隆二委員、中村真人委員、斉藤浩司委員、日向章太郎委員、
寺口恵子委員、齋藤陽太委員、斎藤幸雄委員、宮田昭宏委員、
田中孝明委員、西田陽子委員

（２）事務局 [病院局]

寺井病院事業管理者（兼海浜病院院長）
初芝病院局次長
山本青葉病院院長
西野経営企画課長
香取病院整備室長
高澤管理課長
松川人事・定数担当課長
岡崎青葉病院事務長
内海海浜病院事務長
[保健福祉局 医療衛生部]
柿崎医療衛生部長

4 議 事

- （１）千葉市立病院改革プラン（第５期：令和４～令和６年度）の策定について
（２）新病院整備基本計画・基本設計について

5 議事の概要及び会議経過

- （１）議事（１）千葉市立病院改革プラン（第５期：令和４～令和６年度）の策定について、
資料を各委員あて事務局から送付し、書面にて質疑応答を行った。

【質疑応答】

<田中委員>

概要版の１７ページをみると、青葉病院の病床利用率は、平成３０年度は７７．３％であつたが令和元年度の病床利用率が８３．４％となり、大幅に増えているのはなぜか。

<事務局>

平成３０年度までは青葉病院の病床数が３８０床であつたが、令和元年度より病床数を３６９床と１１床減少した影響もあるが、集患プロジェクトを中心とした集患施策に取り組んだ結果である。

<田中委員>

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の流行や高齢者に配慮して、オンライン診療ができる環境を整えてもらえるとありがたい。

<事務局>

現在、コロナを踏まえて、両病院ともに直接来院しなくても診療できるように、電話再診を行っている。そして、今後はオンライン診療体制の構築をしていきたい。

<田中委員>

診療予約をするのになかなか電話がつながらないとも聞いている。診療予約をインターネットでできるとありがたい。

<事務局>

インターネットを活用した診療予約については、様々な（運用面・セキュリティ面の）課題をクリアしないと難しいことから、すぐには実現できないかもしれないが、ご要望について検討していきたい。

<田中委員>

青葉病院と海浜病院では医療情報システムのベンダーが別会社とのことだが、両市立病院間で患者の情報などが相互参照できる環境を整備することが望ましい。

<事務局>

現在も患者の情報などが相互参照できる環境である。

<田中委員>

働き方改革を踏まえて、定年を迎えた職員の再雇用などの活躍の場を設けることが望ましい。

<事務局>

現在も定年した職員で希望者については、再任用職員や会計年度任用職員として両市立病院で勤務している。

<田中委員>

千葉市立病院改革プラン（第４期）では、経営改善支援業務委託の事業者が関与していたが、第５期プランにおいても委託するのか

<事務局>

少なくとも令和４年度については、経営改善支援業務委託の予算化はしてあり、委託予定である。

<寺口委員>

病院改革プラン概要の１０ページ右下部、青葉病院の果たすべき役割として感染症医療を新規追加されたことは、現在のコロナの状況、未知の新興感染症の対応として素晴らしいと思う。文中に患者の受入れ態勢の維持とあるが、「態勢」は一般的な対応、身構えを表すと思う。「体制」（統一的、持続的、恒久的な組織・制度）ではないか。病院改革プランの１９ページ、同３８ページも同様である。

<事務局>

「態勢」という文言については、指摘のとおり「体制」に改める。

<寺口委員>

病院改革プランの２１ページ、政策的医療への対応の中の関連指標「救急搬送患者数」について、プランの計画期間中の目標値が平成２９年度から令和２年度までの実

績を下回る理由を教えてください。

<事務局>

政策的医療への対応の中の関連指標「救急搬送患者数」について、平成29年度から令和2年度までの実績を下回る目標値とした理由は、青葉病院の常勤救急医が減少していることによる。そのことから、令和4年度以降も令和3年度見込件数（3,700件）を何とか維持していくという目標値としている。関係機関とも調整の上、常勤救急医の確保に向けた取組みを引き続き行っていく。

<西田委員>

病院改革プランの25ページに書かれた人材の確保・育成に関する取組み内容として「認定看護師・特定看護師（ナースプラクティショナー）の育成」が掲げられているが、この取組みは今後重要になる。看護師に対する診療報酬を検討する必要があると思う。この取組みは医師の働き方にも影響すると思う。

<事務局>

「認定看護師・特定看護師（ナースプラクティショナー）の育成」は医師の働き方改革やタスクシフトとも密接に関連しており、今後ますます重要になってくると考えている。両市立病院では相当数の看護師が認定看護師資格を取得済みで、特定看護師資格についても看護師特定行為研修管理委員会を市立病院内に設置済みで順次養成を行っていく予定である。診療報酬制度の枠組みの中では総合入院体制加算をはじめとした様々な加算において、特定看護師や認定看護師の配置が要件の1つとなっている。今後は特定看護師や認定看護師に対するインセンティブの付与や処遇の改善などが診療報酬改定に盛り込まれるのかどうか、国の議論の動向を注視していく。

- (2) 議事(2) 新病院整備基本計画・基本設計について、資料を各委員あて事務局から送付し、書面にて質疑応答を行った。

【質疑応答】

<田中委員>

新病院の整備までに海浜病院の医療情報システムを更新する予定と聞いているが、新病院開院に合わせてシステム更新とはしないのか。

<事務局>

新病院開院時は様々なことが新しくなるなか、医療情報システムも更新すると運用上混乱を生じる可能性がある。また、海浜病院のシステム更新の期限がきており、新病院開院までに更新が必要な状況となっている。

<田中委員>

新病院整備基本計画42ページでは「医療情報システムの設置場所は継続検討とします」とあるが、新病院の院内に設置するということによいか。

<事務局>

データセンターを活用して院外にサーバーをおくのか、院内にサーバーを置くのかを現在検討しているところである。

<田中委員>

新病院ではがん診療体制を強化していくということで、高齢者には大変ありがたい。リニアックについても整備予定なのか。

<事務局>

整備予定である。

<田中委員>

現在の海浜病院はアクセスの面で問題があることから、新病院では、バスなどの公共交通機関との連携を図り、利便性の改善を期待したい。

<西田委員>

新病院整備基本計画・基本設計の概要の３ページにおいて施設の整備方針が列記されているが、効率性・経済性の高い病院としてＩＣＴ、ＩＴを活用した看護の提供と医師との連携はどのように考えているか。今後、対象者と看護師及び医師をつなぐＩＣＴ、ＩＴの役割は重要と考える。

<事務局>

医療情報システムについては、タブレット端末やスマートフォンなどの扱い易いデバイスを利活用するなど、業務効率性や利便性の高いシステムの導入を検討していきたいと考えている。

このため、新病院においては、医療情報システムの診療情報へのアクセス性を高めるための全館の業務用無線 LAN 環境、インターネット環境の構築を検討していく。

<横手委員>

千葉市内外の医療需要と限られた人的医療資源を勘案し、市立病院以外の医療機関との競合ではなく協調・役割分担のもとに、千葉市全体として optimal（最適）な医療を提供できるビジョンを描いてもらいたい。

<事務局>

市立病院は、現在提供している救急、周産期、小児、精神、感染症、災害などの政策的医療について、その機能を維持、発展させつつ引き続きその機能を担うこととしている。

新病院においては、市立病院に期待される役割を果たすため、他医療機関との連携・役割分担のもと救急医療、周産期医療、小児医療、高齢者医療などの充実を図っていく計画としているが、今後も少子超高齢社会が進展する中、医療圏における需給状況等に応じた長期的視点で、両市立病院の連携とともに、周辺医療機関を含めた機能・役割分担を行い、医療圏として市民が必要とする医療を提供できるよう取り組んでいく。

<寺口委員>

新病院整備基本計画・基本設計の概要版の建築計画の設計図上で、SS（受付・スタッフステーション）入り口付近に洗面台がないが、感染対策として必要であると思う。

<事務局>

設置場所を検討中であったため、設計図上記載していなかったが、その後の検討により病棟の SS 内の入口付近など、複数の手洗機器を設置していく予定としている。

<寺口委員>

新病院整備基本計画・基本設計 1 ページの病院事業基本方針に、「(4) 職員が働きやすい環境づくり」が記載されているが、看護部門をはじめとする各部門の基本方針、機能・業務概要に病院の基本方針が反映されていないと思う。

また、病院組織図がないが、病棟部門・外来部門は部門を管理する人が配置されているのか。

<事務局>

部門計画では、外来や救急など各部門における基本的な業務内容や機能面を位置付けた

ものとしている。基本計画書では施設整備方針として、効率的な業務動線や教育や研修に利用できるスペースの確保、職員ラウンジ配置など職員が働きやすい環境を整備する計画とし、各部門と調整しながら設計を行っている。各部門が効率的・機能的に運営できるよう、今後運用・体制等を具体的に検討していく予定としている。

また、現海浜病院において、各病棟及び外来に各部門の責任者を配置しているところであり、新病院においても適切な管理体制を整えていく。

<西田委員>

将来的に子供達が成長、発達する中で、外の世界の体験ができる身分ロボットができるスペースを確保しているか。また、移動するコンビニのスペースを確保しているか。

<事務局>

新病院においても入院中の子供達の学習のため院内学級のスペースを確保するが、院内学級の運営方法などについては今後関係機関と調整を図っていく。

また、コンビニエンスストアは、使いやすさに配慮した位置に配置予定だが、利用者の利便性が向上するサービスについては、今後も検討していく。

<西田委員>

手術部門について、執刀医師の専門性の確保、海外研修及び器械の導入の検討はどうしているか。

また、クリニカルパスの導入の検討はどうなっているか。ケアプロセスを標準化し一部診療報酬の反映ができるのではないか。

<事務局>

医師については大学医学部との連携などにより確保に取り組んでいくとともに、必要な研修などを今後も実施していく。また医療機器については、新病院が担うべき役割を果たすために必要な機器を整備していくが、導入時期の検討とともに費用対効果を踏まえた整備計画を策定していく。

クリニカルパスは現海浜病院においても実施し、診療報酬に係る入院期間等も考慮しながら対象疾患・検査などの拡大を行ってきたところである。今後も医療の質の向上などに向け充実に取り組んでいく。

また、がん診療に係わる地域連携パスを他の医療機関と共有し、がん治療の連携に係る施設基準を取得している。

<西田委員>

新病院において産後ケア病棟について検討してはどうか。現在、産後うつ病により、絶望的になったり不安により自殺を考える人が増加しており、また、乳幼児虐待の原因になっている。産後ケアを充実させることで、入院日数の加算や母子保健の予算も確保できると考える。

<事務局>

現在、妊娠出産育児に関する相談などに対応する助産師外来を実施しているが、妊娠出産育児に関するサポート体制については今後も充実に向けて検討していく。

以 上

問い合わせ先 千葉市病院局経営企画課

TEL 043-245-5744